

一般ボランティアを活用した 障がい者就労定着の効果と課題

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

那覇市障がい者ジョブサポーター派遣等事業

○コーディネーター 新里学（しんざと・まなぶ）

那覇市障がい者 ジョブサポーター派遣等事業とは？

【前置き】障害者自立支援法の制定とセンターの設立

平成18年度、障がい者を一般就労に向けて支援することを目的として「障害者自立支援法」が制定。

それに伴い、「一般社団法人那覇市身体障害者福祉協会」が那覇市からの委託で「障害者就労支援センターさわやか」がスタートした。

このとき、障がい者の就労支援だけでなく、定着サポートも視野に入れたものにしようと、さわやかの一事業として始まったのが

「那覇市障がい者ジョブサポーター派遣等事業」である。

※以降「那覇市障がい者ジョブサポーター派遣等事業」は「ジョブサポ事業」と表記する。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

「ジョブサポーター」と「ジョブコーチ」

① ジョブコーチ

「職場適応援助者(ジョブコーチ)」のことで、就職した障がい者が、職場に対応して働き続けられるよう、障がい者の支援や指導、職場へのアドバイスなどを行い、障がい者が働き続けていくための支援していく専門職。

② ジョブサポーター

一方、「ジョブサポーター」は名称こそ似ているが、活動内容はまったく異なる。同事業は職員2人のみで、それ以外は一般の方々によるボランティアで、資格職ではない。

※1 以降「ジョブサポ」を運用する事務局を「ジョブサポ事務局」と表記する。

※2 以降「職場適応援助者(ジョブコーチ)」はジョブコーチと表記する。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

就労定着支援事業の開始

③ 就労定着支援事業の誕生とジョブサポ事業

数年前より「就労定着支援」という福祉サービスが始まっている。
一般企業に就職した障がい者の方々が、
その職場で働き続けられるように支援する事業だ。
つまり、ジョブサポ事業と同じ理念の事業である。
しかも定着支援事業には、専門の支援員が配置される。
そう考えると、ジョブサポ事業の役割は終わったように
感じるかもしれない。
だがこうして、ジョブサポ事業は継続して運営されている。
それはなぜなのか。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーターの活動内容

④ 職場適応援助者(ジョブコーチ)の役割

ここからは話の内容を簡潔にするため、
「ジョブコーチ」に絞って話を進める。

ジョブコーチのみを支援者としているわけではないので、
そこは誤解のないよう申し添えておく。

さて、先に「ジョブコーチの活動内容」として、
就職した障がい者が、職場に対応して働き続けられるよう、
支援計画を組んで障がい者や職場にアプローチしていくことで、
障がい者がその職場で働き続けられるように支援していくのが
ジョブコーチの役割だとお伝えした。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーターの活動内容

⑤ ジョブサポーターの役割

では、ジョブサポーターの役割は何かというと、
障がい者の普段の働き方を観察し、
障がい者の今の本音を聴きだすこと。
そしてそこで得た情報を支援機関に提供する。
つまり「観察」と「傾聴」で得た情報を提供するだけである。

ちなみに、その情報の主な提供先は支援者である。
これまで何度も出てきた「ジョブコーチ」や
「職場定着支援事業」などの支援機関などのことだ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ボランティアであることの重要性①

⑥ 障がい者と支援者の間に入る意義

ジョブサポーターが一般の方々によるボランティアであることは、これまで何度もお伝えした通り、資格職や専門職ではない。

ジョブコーチが障がい者や職場に直接介入してアドバイスや職場環境の改善をするのに対し、ジョブサポーターが「観察」と「傾聴」にとどまるのは、専門職でなく、一般の方々によるボランティアであるためだ。ではなぜ、ジョブコーチや定着支援事業に代わって、ジョブサポーターが観察したり傾聴することによって価値があるということになるのか。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーターの活動制限とメリット

⑦ その場で指導することのメリットとデメリット

たしかにジョブコーチがその場で注意することにメリットはある。しかし障がい者が相手である場合、デメリットが生じてしまう場合もある。

特に障がいがある方に多いのが、「指導」されたことを「怒られた」と考えてしまう方がいるということだ。

それは単なる被害妄想でなく、そうした生活を送ってきたからだ。間違っているかもしれないことを言ったり、

同じ質問をして怒られることを苦痛と感じるのは当然のことだ。

怒るかもしれない相手に、本音を言う勇気はあるだろうか？

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーターの活動制限とメリット

⑧ その場で指導しないことのメリット

逆を言えば、作業を最後まで注意せずに見守ることはその障がい者にとっての「普通」を観察するチャンスであるし、障がい者の語る言葉を遮ることなく聴き取れば、それはその方の偽りない本音ということになる。

ジョブサポーターは、障がい者の作業や言葉を評価せず、聴いたこと、観た事実だけを支援機関に報告する。これが支援計画書の作成において、どれだけの価値があるか、お分かりいただける方も多いのではないだろうか。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ボランティアであることの重要性②

⑨ ボランティアだからこその価値

ジョブサポ事務局にジョブサポーターとして登録してくださる方には様々な方がいる。

専業主婦や障がい休職中の方、
現役の教師や福祉施設で職員や管理者をしている方もいる。
つまり「福祉の人間以外の方」がジョブサポーターとして活動してくださっているということだ。

幅広い業種は広い視野を生む。

これは、資格を持った支援者に限定しないからこそ
メリットだと考えている。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーター質向上の取り組み

⑩ ジョブサポーター養成研修

ただ、一般の方々であるということが
ジョブサポーターの価値であると言っても、
最低限の知識は必要だ。

そこでジョブサポーター事業では、登録希望者を募集する際、
必ず養成研修を受講していただくことを条件としている。
養成研修の中身はジョブサポーターの基本や、
那覇市障がい福祉課で行っている福祉サービスの概要などだ。
これらを受講した方は、いったん登録となる。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポーター質向上の取り組み

⑪ ジョブサポータースキルアップ研修

いったん、というのは、登録後も受けていただく
「スキルアップ研修」というものがあるためだ。

この研修はかなり多岐にわたっており、
肢体不自由、視覚、聴覚、内部障がい、精神、知的、発達、
難病、高次脳機能障がいといった障がい特性のほか、
ハローワークでの求人票の見方、ナカポツセンターや
障害者職業センターの役割、傾聴や報告書の書き方など、
多くのことを学習していただく。

これは、支援機関に適切な情報を適切に届けるために
大切な知識と考えているためだ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

余暇活動の取り組み

⑫ ワークライフバランス

ジョブサポ事業では、平成28年度に発足したと同時に働く障がい者のために余暇活動（レクリエーション）の場を提供している。

ジャンルは偏らないように配慮しており、これまでもグラウンドゴルフ、ビーズ手芸、プラネタリウム、紅型（びんがた）づくり、クリスマスパーティーと行ってきた。これは仕事に終始する生活だと精神的に疲弊してしまい、結果として離職につながると当時から考えていたためである。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

余暇活動の取り組み

⑬ 平日余暇

最近では、平日の余暇も可能な限り実施している。
仕事をしている人は必ずしも、土日に休めると限らないからだ。

そしてもう1つ、平日余暇にを行うのには狙いがある。
有給休暇の取得をしていただくことだ。
障がい者の中には有給休暇の取得方法をしらなかったり、
そもそも有給休暇の存在を知らなかったりする方もいる。

そうした方々に有給休暇の使い方を知っていただき、
自分で生活を豊かにする感覚を身に付けてほしいというわけだ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

特別支援学校から始まるサポート

⑭ ジョブサポーターは卒業前から関わることができる

ジョブサポ事業では、特別支援学校で行われる
職場実習体験の定期巡回も活動の1つとしている。

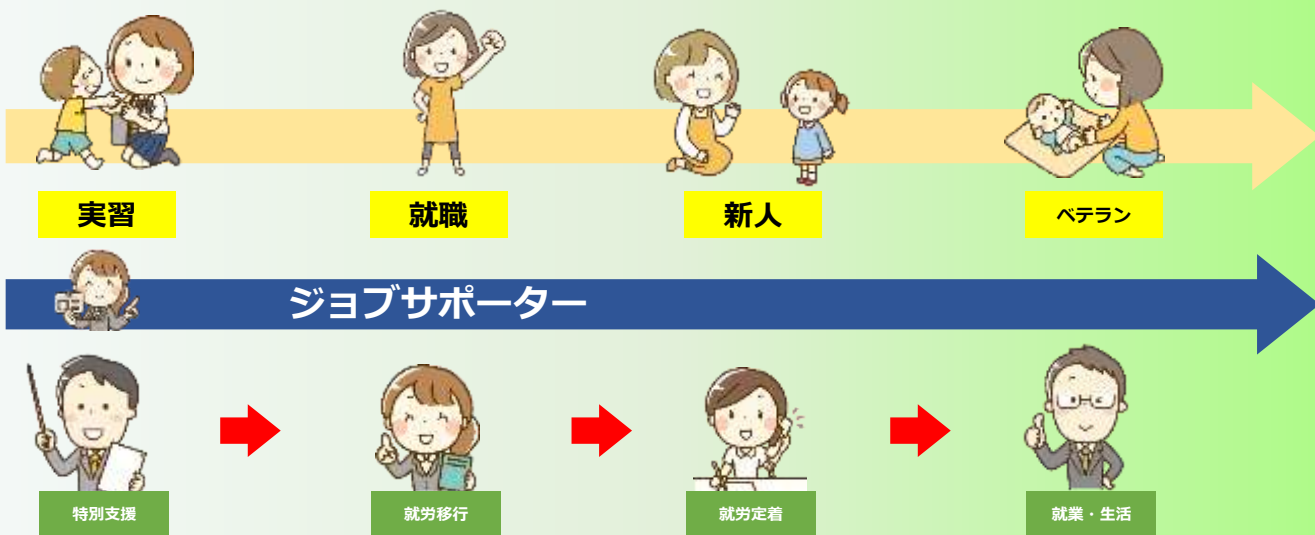
というのも、特別支援学校の卒業生には、
そのまま就職の道に進む方も多いからだ。
そのため特別支援学校では2年生から実際の企業で
実習体験を行い、先生方が企業担当者から評価を聞くなどして、
職場適性などを判断するというわけだ。
そこにジョブサポーターが観察と傾聴を行うことで
さらに情報の確度を上げるというわけである。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

特別支援学校から始まるサポート

⑮ 途切れないサポートの実現

また、ジョブサポーターは「福祉サービス」ではないため、利用期間の制限というものがなく、他の福祉サービスと並行して利用することが可能だ。
しかも、支援機関が変わったとしても中断することがない。



那覇市障がい者ジョブサポーター派遣等事業

特別支援学校から始まるサポート

⑩ 途切れないサポートの実現

就労支援の福祉サービスにはそれぞれ期限があり、期限に達するごとに次の福祉サービスや支援機関へと障がい者の方の支援が引き継がれていく。これは制度上、仕方がないことだとはいえ、引継ぎのタイミングで情報の損失が起こりやすく、デメリットだ。しかしジョブサポ事業には期限がなく、福祉サービスの併用も問題ない。つまり、小さな引き継ぎの漏れも、情報を蓄積し続けるジョブサポ事業の存在があることは、大きなメリットと言える。

※福祉サービスでも「就労継続支援A型」や「就労継続支援B型」といった無期限の事業はあるが、就労移行と併用できるわけではないため除外した。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業の今後の課題

⑰ 転居によるサポートの中断

先ほど、ジョブサポ事業のメリットとして「中断しない」ことをメリットとして挙げたが、それは障がい者の方が那覇市民でありつづけることが条件だ。

当事業が那覇市の委託事業であることから分かる通り、当事業の活動は那覇市民に還元されなければならない。つまり、那覇市外に転居した時点で、終了となるのだ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業の今後の課題

⑱ 男女間のトラブル

当事業のサポート対象となる障がい者の方は、
労働人口に計上される15歳から65歳の男女だ。

当然、20代、30代の方も多い。

そうした方々が余暇活動で集まった時、

気を配らなければならないのが、男女の過度な接触や
連絡先交換である。

そのため、余暇活動の冒頭で、男女の接触や
連絡先交換の禁止はアナウンスしているが、

じつはこれも矛盾した行為なのではないかと考えている。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業の今後の課題

①⑨ 主催者が出会いを阻害していいのか

余暇活動に参加する障がい者の多くは、他の参加者との交流を楽しみとしており、それが仕事を続けていくためのモチベーションにつながっていることも多い。

そして余暇活動で惹かれる異性に出会うことは自然な流れだ。

しかし、障がい者同士の交際は、トラブルの温床となりやすく、特に女性側の家族は、この問題に敏感だ。

障がい者の人生を守ることと、将来に向けたサポートをすること、この問題の解決も、意外と大きな課題だと考えている。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業が目指していること

②⑩ 意味がないという誤解の払拭

ジョブサポーター事業は「観察」と「傾聴」に特化したボランティア事業だ。

現場で直接的な解決や助言を行うのではなく、支援機関がよりの確な対応を行えるよう、客観的な情報を提供する役割を担っている。

しかし、「観察」と「傾聴」に徹した活動スタイルは、外から見ると「何もしていないのでは？」という誤解を招きやすい面がある。そのため、ジョブサポーター事業の本質的な価値、すなわち支援機関の質を高めるための前段階支援”であることを、多くの関係者に理解してもらうことが重要な目標だと考えている。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業が目指していること

②① 見守りと傾聴という支援スタイル

先ほど、課題の一つとして

「那覇市外への転居による中断」について書いたが、
じつは、この問題は他の自治体にジョブサポーター事業、
あるいはそれに類する事業があることで簡単に解決する。

だが、ここでもやはり

「観察するだけ」「話を聴くだけ」という受動的活動スタイルが
展開を足踏みさせているらしいことをよく聞く。

だが、これは「見守り」と「傾聴」であり、
このスタイルも立派な支援のひとつであることを、
多くの方に知っていただきたいと考えている。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業が目指していること

②② 那覇市外にもジョブサポーター制度を

現在、ジョブサポーターを利用をしていただいている方のうち、多くは「利用して良かった」と評価していただいている。

そして嬉しいことに、ジョブサポーターの利用継続を希望する方も非常に多い。

しかし、本人が希望されたとしても継続できないケースがある。たとえば那覇市外に転居することになった場合だ。

那覇市外に転居が

「那覇市外にジョブサポーターがないのは困る」

と言った、嬉しい意見をいただくことさえある。

だがこれは、他の市町村でジョブサポーターを利用したいと、望んでいる方々が確実に存在しているということだ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

ジョブサポ事業が目指していること

②③ 周知活動の重要性

だが、那覇市の委託事業として15年以上の続けてきたジョブサポ事業だが、未だに那覇市以外でジョブサポーター事業、あるいはそれに類するボランティア事業を耳にしたことがない。

その理由は様々だと思うが、その理由のひとつにジョブサポ事業の名前や価値を十分に周知できていないことがあるのではないかと考える。

ジョブサポ事業が那覇市外に展開されれば、障がい者の方も居住地で制約を受けることなくジョブサポ事業を利用できる。

それが今のジョブサポ事業の目標だ。

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

那覇市独自の就労定着
ボランティア派遣事業

さいごに

ジョブサポーター事業の普及を目指して

那覇市身体障害者福祉協会が那覇市からジョブサポーター事業の委託を受けたのは、平成18年11月のこと。

当時の日本は「障害者自立支援法」の施行によって、それまで「労働力になる障がい者」と「労働力にならない障がい者」という考え方が変わり始めた時代でした。

それはもちろん、非常に価値のある変化だったといえます。しかし、那覇市はその先を観ていました。

本稿を執筆している私は、この事業に関われたことを誇りに思い、心から感謝しています。

どうぞ、この事業が広げるために皆様のお力を少しだけお貸しください。